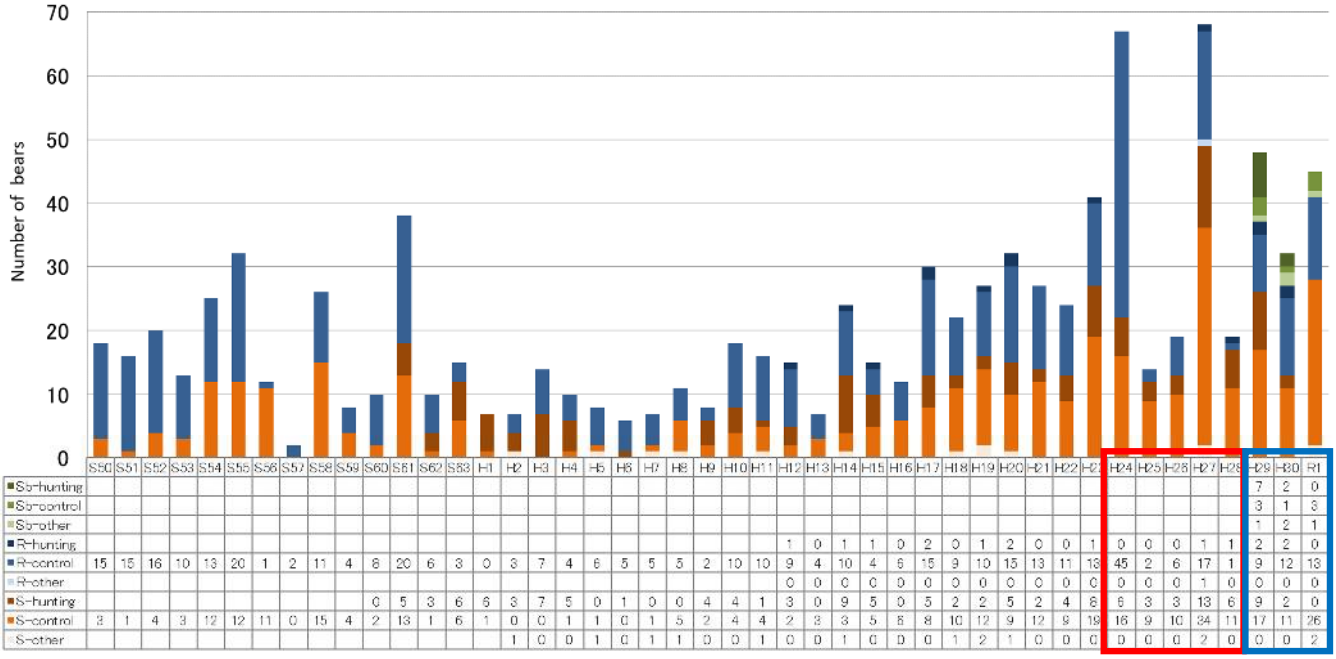
参考資料 3

知床半島ヒグマ管理計画　モニタリング結果（速報）

●人為的死亡個体（有害捕獲・狩猟）に関する情報収集

・2019（令和 1）年の 3 町におけるヒグマの人為的死亡数は合計 45 頭（斜里町 28 頭、羅臼町 13 頭、標津町 4 頭）。＊10 月末現在



	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
Sb-hunting																																											7	2	0
Sb-control																																											3	1	3
Sb-other																																											1	2	1
R-hunting																										1	0	1	1	0	2	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	1	2	2	0
R-control	15	15	16	10	13	20	1	2	11	4	8	20	6	3	0	3	7	4	6	5	5	5	2	10	10	9	4	10	4	6	15	9	10	15	13	11	13	45	2	6	17	1	9	12	13
R-other																										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
S-hunting											0	5	3	6	6	3	7	5	0	1	0	0	4	4	1	3	0	9	5	0	5	2	2	5	2	4	8	6	3	3	13	6	9	2	0
S-control	3	1	4	3	12	12	11	0	15	4	2	13	1	6	1	0	0	1	1	0	1	5	2	4	4	2	3	3	5	6	8	10	12	9	12	9	19	16	9	10	34	11	17	11	26
S-other																1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2

図 1．斜里町・羅臼町・標津町におけるヒグマの人為的な死亡数

（R：羅臼町、S：斜里町、Sb：標津町、hunting：狩猟による捕獲、control：有害捕獲、other：事故・人材育成）

＊1975-1984（S50-59）の羅臼町の数字については知床の哺乳類に掲載の図から読み取って記入

＊1986 年（S61）以前の狩猟による捕獲数はデータなし

＊標津町については 2017 年から記載。その他の空白セルはデータなし

＊1～12 月に捕獲された個体をその年の捕獲として集計。

＜捕獲要因＞

・斜里町におけるヒグマの主な捕獲要因は、農作物加害によるものであった。その他、住宅地への侵入又は接近、ヒグマ対策技術者育成のための捕獲があった。

・羅臼町におけるヒグマの捕獲要因は、住宅地への侵入又は接近が主な要因であった。その他は、不法投棄ごみを食べた、漂着死体に執着して威嚇行動を繰り返す、問題行動が確認された地点で捕獲檻によって捕獲等、行動履歴が要因となって捕獲した事例である。

・標津町におけるヒグマ捕獲要因は、住宅地（酪農家）への接近が主な要因であった。

表 1．3 町におけるヒグマの捕獲要因の内訳（2019 年）

斜里町		羅臼町	
農作物加害（段階 2）	24	住宅地への侵入又は接近（段階 1）	9
住宅地への侵入又は接近（段階 1）	2	行動履歴から（段階 1+、2）	4
ヒグマ対策技術者育成のための捕獲	2	狩猟	0
計	28	計	13
標津町			
住宅地（酪農家）への接近（段階 1、2）	3		
ヒグマ対策技術者育成のための捕獲	1		
狩猟	0		
計	4		

●ヒグマ目撃アンケート

・目撃数アンケートは斜里町・羅臼町で実施し、標津町では実施していない。

＊斜里町・羅臼町では 3 月～翌年 2 月までをその年の数字として集計した。

斜里町

・2019 年 3 月 1 日以降の目撃件数は、10 月末時点で 940 件。昨年同期（1,555 件）より 615 件少なく、前年比で約 60%となった。

・全体的にヒグマの目撃件数は少なかったが、7 月に知床五湖でのヒグマ目撃が急増したため、特に 7 月の件数が多くなった。

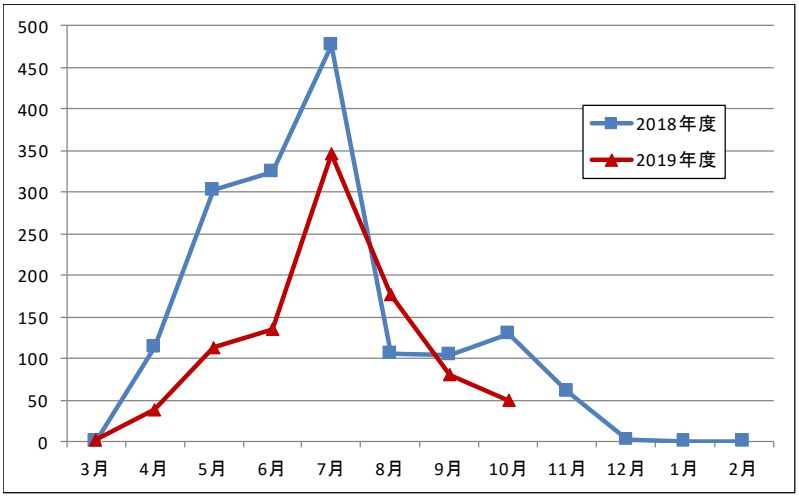
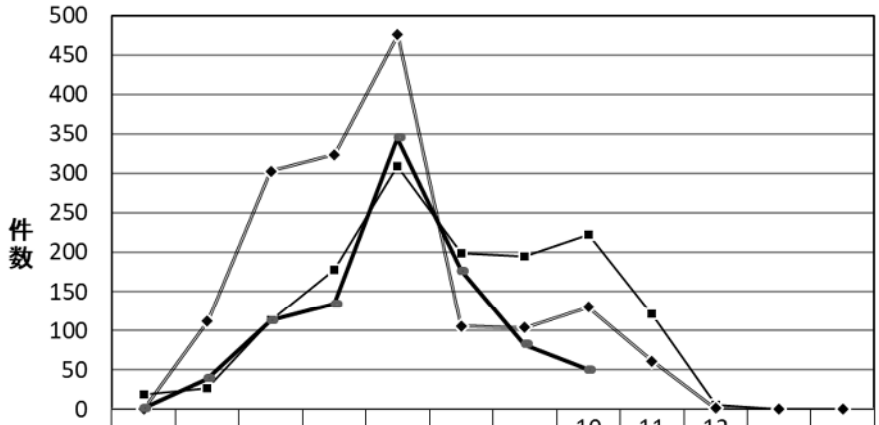


図 2. 斜里町におけるヒグマ目撃件数の月別変化（2019 年）

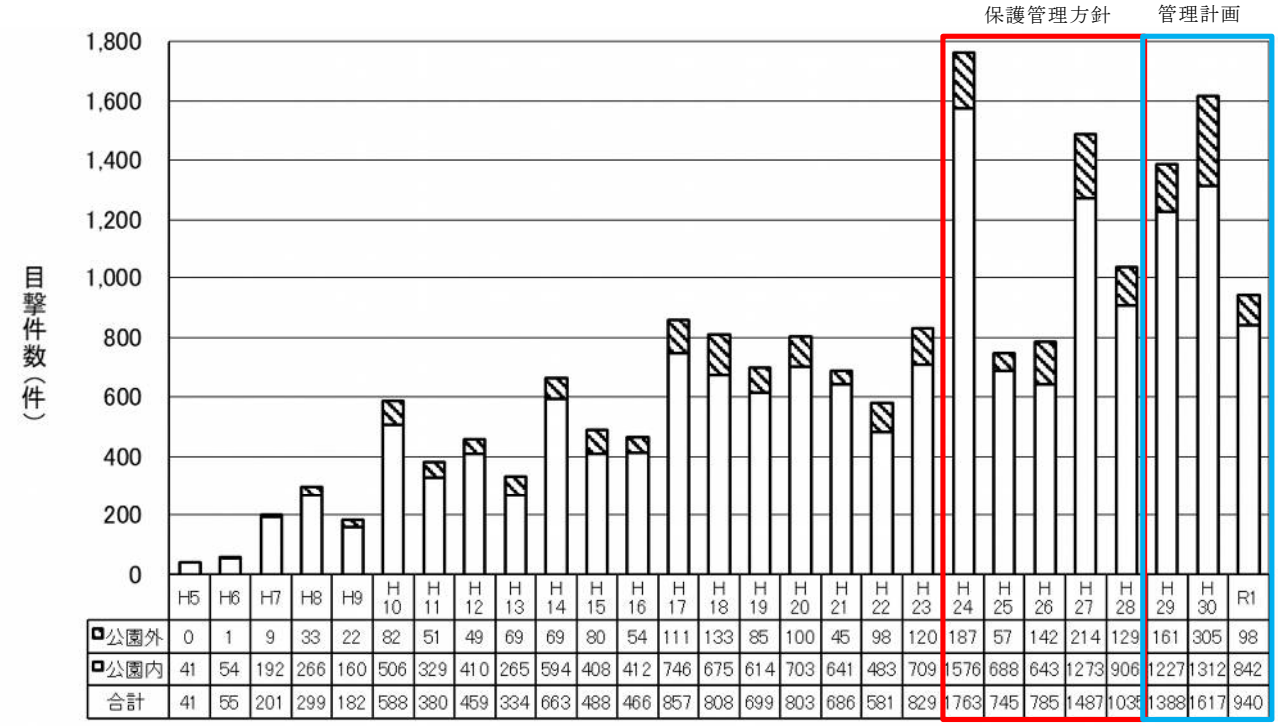
・ヒグマの目撃情報は、3～4 月から始まり、7 月付近でピークとなり、1 月以降にほとんどなくなるのが例年のパターンとなっている。月別では、7 月が過去 3 年間とも最も目撃件数が多かった（図 2）。



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
平成29年	19	26	114	178	309	199	195	222	121	5	0	0
平成30年	0	112	303	324	476	106	104	130	61	1	0	0
令和元年	1	39	113	134	345	176	82	50				

図 3.　斜里町におけるヒグマ目撃件数の月別変化（平成 29－令和 1 年）

・平成 24（2012）年や平成 30（2018）年のような大量出没年を除くと平年並みの件数であり、知床半島ヒグマ管理計画が運用されてから最も目撃件数が少ない年となる見込み（図 1）。



	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
公園外	0	1	9	33	22	82	51	49	69	69	80	54	111	133	85	100	45	98	120	187	57	142	214	129	161	305	98
公園内	41	54	192	266	160	506	329	410	265	594	408	412	746	675	614	703	641	483	709	1576	688	643	1273	906	1227	1312	842
合計	41	55	201	299	182	588	380	459	334	663	488	466	857	808	699	803	686	581	829	1763	745	785	1487	1035	1388	1617	940

図 4.　斜里町におけるヒグマ目撃件数の推移
※令和元年は 10 月末時点の件数

<u>羅臼町</u>

・2019 年 3 月 1 日以降の目撃件数は、10 月末時点で 339 件。2018 年度の 277 件を上回る。
・月別目撃数について昨年と異なったのは、4 月が多く、5 月が少なかったことである。

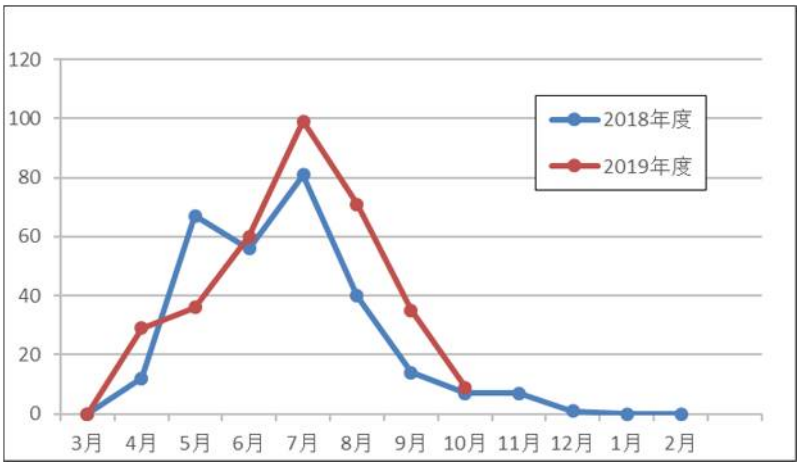


図 5.　羅臼町におけるヒグマ目撃件数の月別変化（2019 年）

・平成 28（2016）年以降、ヒグマの目撃件数は増加している。令和元（2019）年の目撃件数は 10 月末時点で 339 件となり、過去 2 番目の件数であった。また、国立公園内での目撃件数は、過去最多であった昨年度を上回った（図 3）。国立公園内での目撃が多かった要因としては、横断道路での目撃が多かったこと及び知床岬へのトレッキングルート上でのヒグマの目撃が多かったことが挙げられる。月別に見ると、令和元（2019）年は 7 月の目撃件数が最も多かった（図 4）。

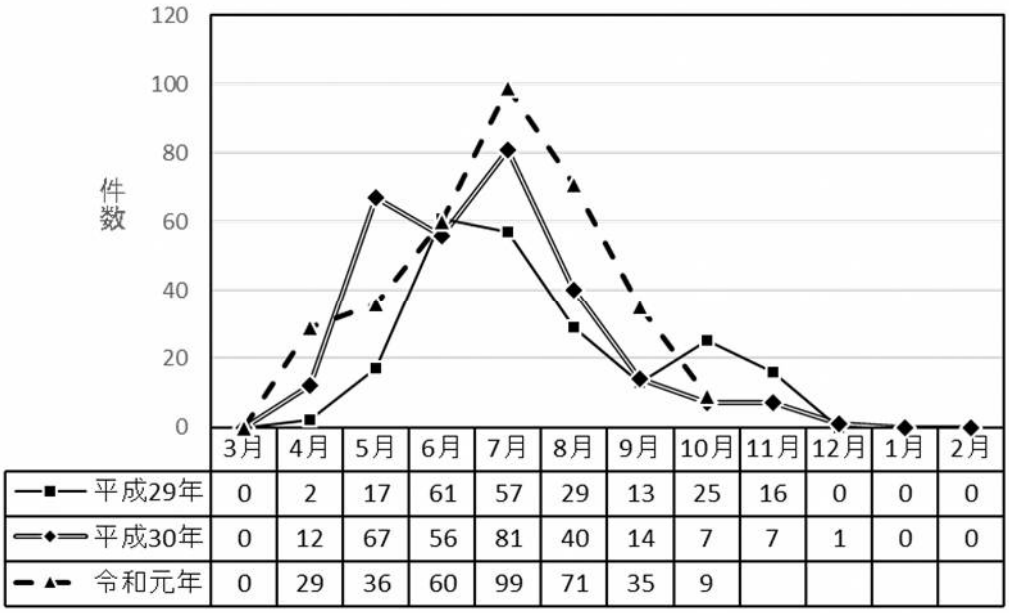


図 6.　羅臼町におけるヒグマ目撃件数の月別変化（平成 29－令和 1 年）

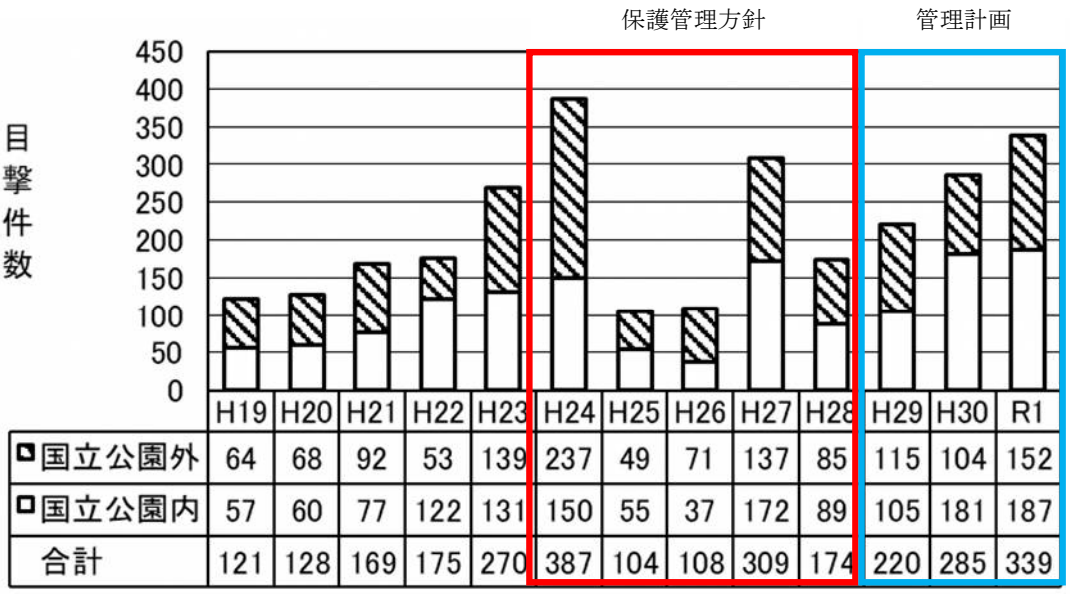


図 7.　羅臼町におけるヒグマ目撃件数の推移

※令和元年は 10 月末時点の件数

●出没や被害に関する通報・対応件数と対応状況

＜ヒグマ対応件数＞

斜里町

＊知床財団による対応のみを集計。猟友会による対応は除く。

令和元（2019）年 10 月末時点のヒグマ対応件数は 490 件であった。平成 24（2012）年以降、ヒグマ対応件数が最も多かった年は平成 30（2018）年（1,052 件）であった。平成 23（2011）年以前と比較して、対応件数は多い傾向にあったが、令和元（2019）年は知床半島ヒグマ保護管理方針（現：管理計画）の運用が始まってから最も対応件数が少ない年となる見込み（図 5）。月別では、過去 3 年ピークとなる月が異なっており、令和元（2019）年は 8 月がピークとなった（図 6）。

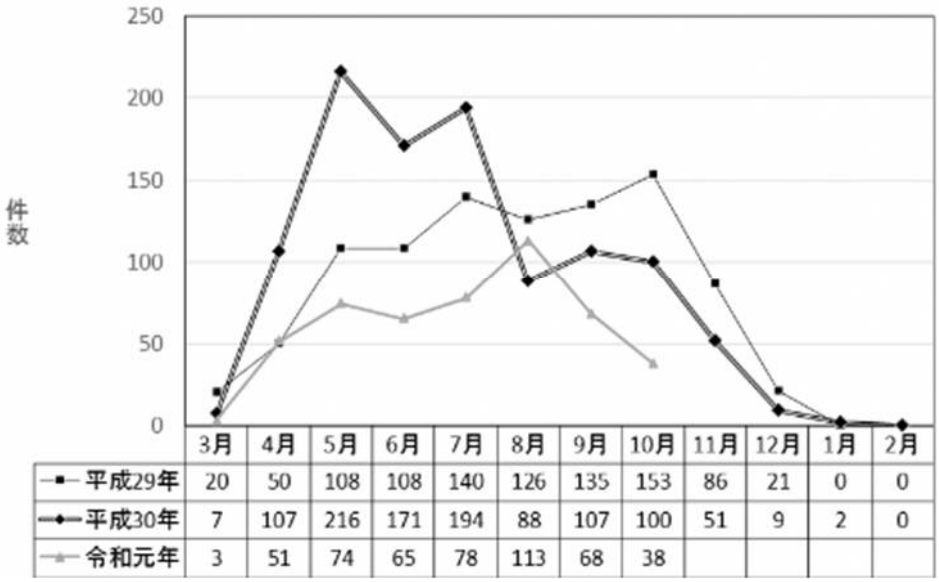


図 8.　斜里町における月別ヒグマ対応件（平成 29－令和 1 年）

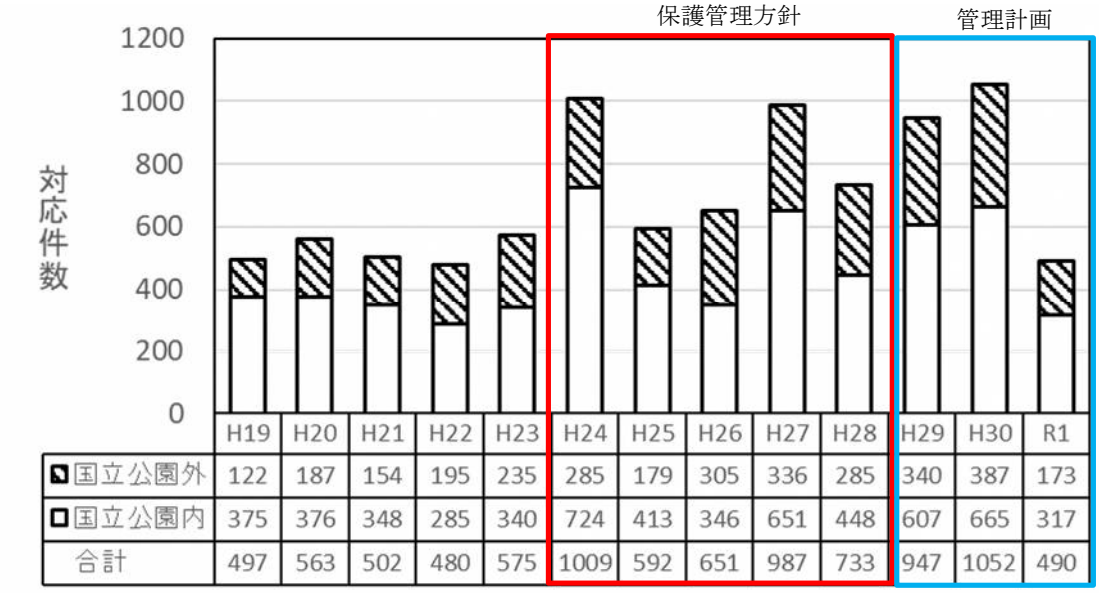
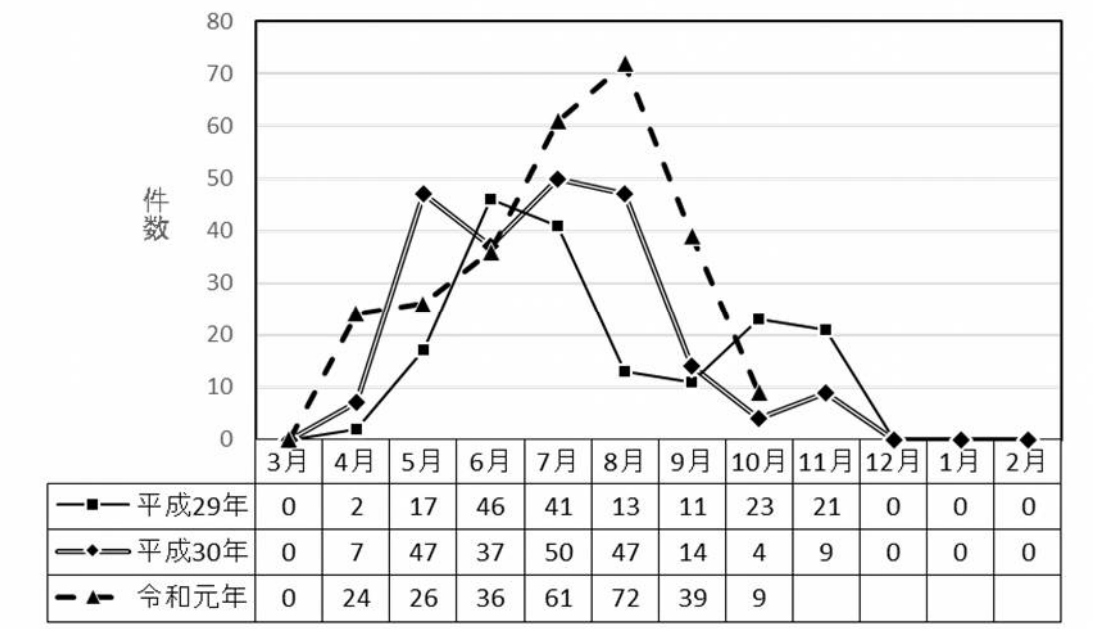


図 9.　斜里町におけるヒグマ対応件数の推移

※令和元年は 10 月末時点の件数

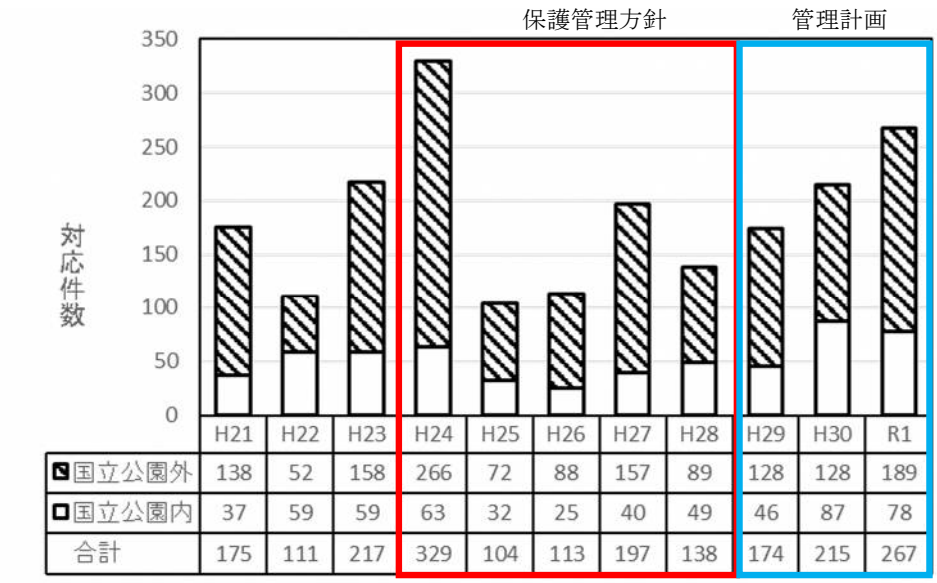
羅臼町

令和元（2019）年のヒグマ対応は 10 月末時点で 267 件（国立公園外 189 件、国立公園内 78 件）あり、過去 2 番目に多い件数となった。昨年度に比べ、国立公園外での対応が増加していた（図 7）。月別に見ると、斜里町と同様にピークの月が過去 3 年で異なっており、令和元（2019）年は 8 月の対応件数が最も多かった（図 8）。



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
平成29年	0	2	17	46	41	13	11	23	21	0	0	0
平成30年	0	7	47	37	50	47	14	4	9	0	0	0
令和元年	0	24	26	36	61	72	39	9				

図 10.　羅臼町における月別ヒグマ対応件数（平成 29－令和 1 年）



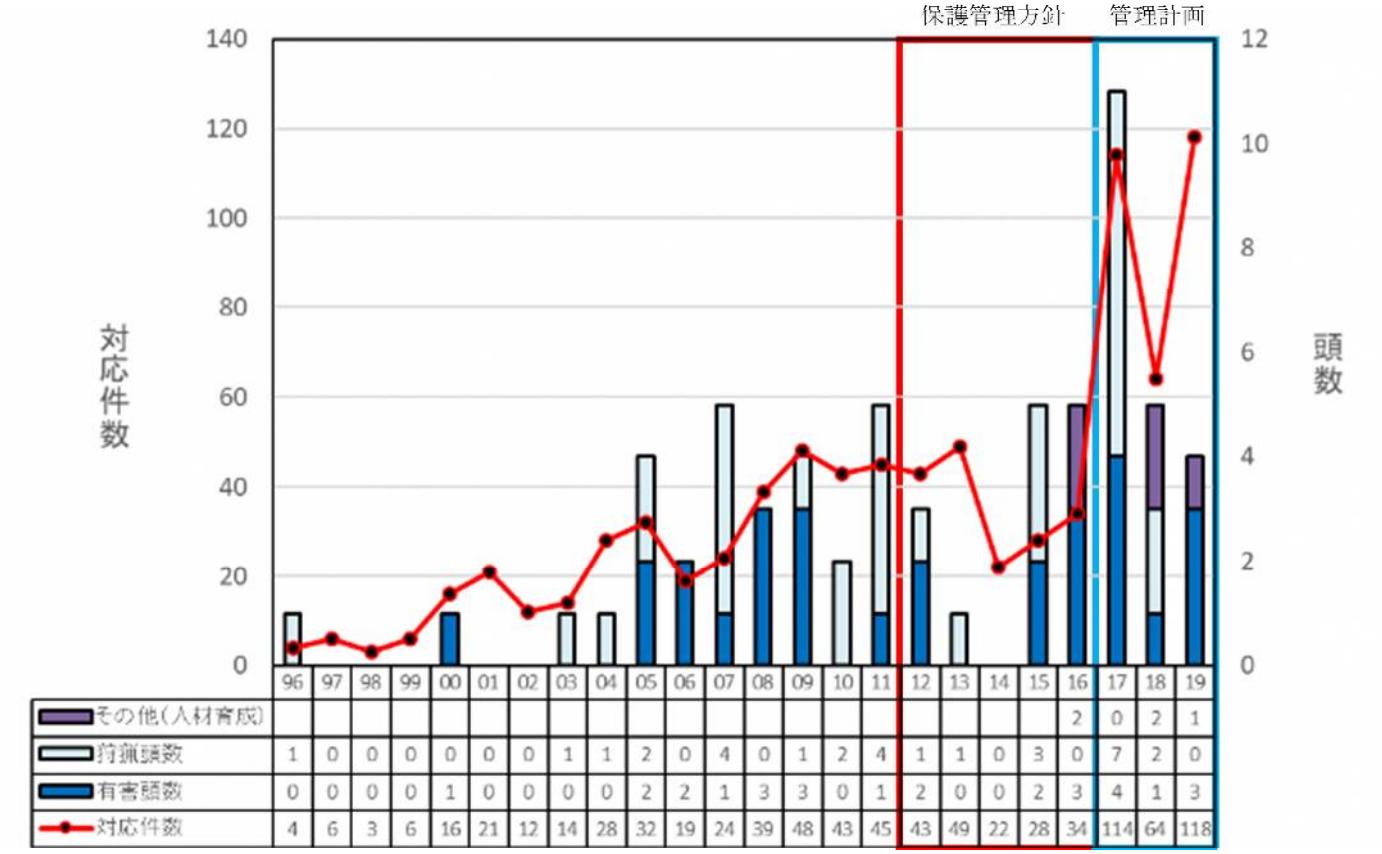
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
国立公園外	138	52	158	266	72	88	157	89	128	128	189
国立公園内	37	59	59	63	32	25	40	49	46	87	78
合計	175	111	217	329	104	113	197	138	174	215	267

図 11.　羅臼町におけるヒグマ対応件数の推移

※令和元年は 10 月末時点の件数

標津町

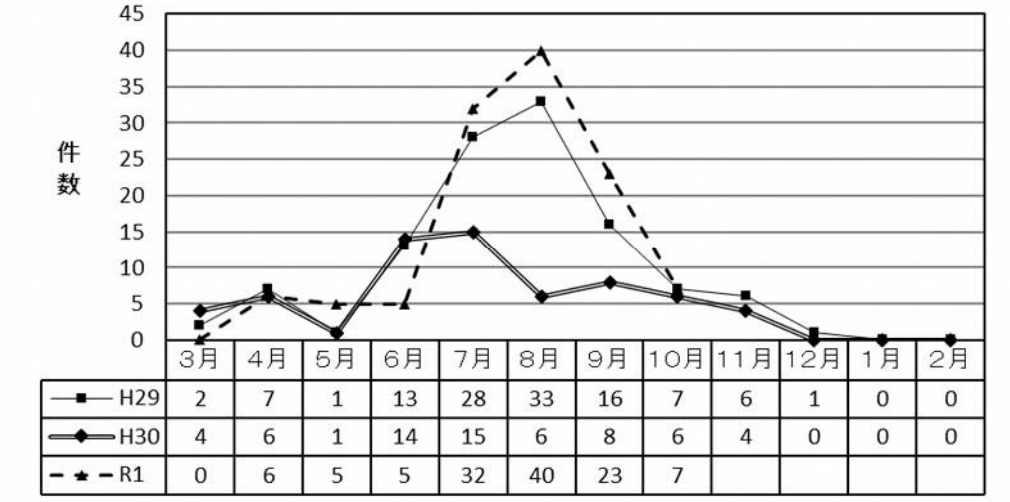
令和元（2019）年 10 月末時点で過去最多だった平成 29（2017）年度の対応件数 114 件をわずかに上回る 118 件となっている。一方で捕獲頭数については過去最多だった平成 29（2017）年の 11 頭と比較し令和元（2019）年 10 月末時点で半数以下の 4 頭となっている（図 9）。月別では 8 月が最も多く、平成 29（2017）年と同様の傾向を示している（図 10）。



	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
その他（人材育成）																					2	0	2	1
狩猟頭数	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	4	0	1	2	4	1	1	0	3	0	7	2	0
有害頭数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	3	3	0	1	2	0	0	2	3	4	1	3
対応件数	4	6	3	6	16	21	12	14	28	32	19	24	39	48	43	45	43	49	22	28	34	114	64	118

図 12.　標津町におけるヒグマ対応件数の推移

※令和元（2019）年は 10 月末時点の件数



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
H29	2	7	1	13	28	33	16	7	6	1	0	0
H30	4	6	1	14	15	6	8	6	4	0	0	0
R1	0	6	5	5	32	40	23	7				

図 13.　標津町における月別対応件数

＜ゾーン・行動段階ごとの出没状況の解析＞

＊斜里町は知床財団による対応のみを集計。猟友会による対応は除く。

斜里町では、ゾーン別では特定管理地、行動段階別では行動段階 1 の対応件数が多く、特定管理地・行動段階 1 の対応が過半数を占める（表 2）。羅臼町では、ゾーン別ではゾーン 4、行動段階別では行動段階 1 の対応件数が多く、ゾーン 4・行動段階 1 の対応が約半数を占める（表 3）。標津町では、ゾーン別ではゾーン 3、行動段階別では行動段階 0 の対応件数が多く、ゾーン 3・行動段階 0 の対応が過半数を占める（表 4）。

表 2.　斜里町におけるゾーン別、行動段階別のヒグマ対応件数

年	ゾーン	行動段階					計
		0	1	1+	2	3	
2017年	1	0	2	0	0	0	2
	2	1	48	1	2	0	52
	3	0	24	4	15	1	44
	4	0	2	0	0	0	2
	特定管理地	2	207	8	0	0	217
	計	3	283	13	17	1	317
2018年	1	0	0	0	1	0	1
	2	0	47	0	2	0	49
	3	0	90	21	0	0	111
	4	0	3	0	0	0	3
	特定管理地	2	254	19	1	0	276
	計	2	394	40	4	0	440
2019年	1	0	1	0	0	0	1
	2	5	6	0	0	0	11
	3	1	18	0	0	0	19
	4	0	0	0	0	0	0
	特定管理地	8	91	9	0	0	108
	計	14	116	9	0	0	139

※行動段階が明確な対応のみを集計

※2019 年は 10 月末時点の件数

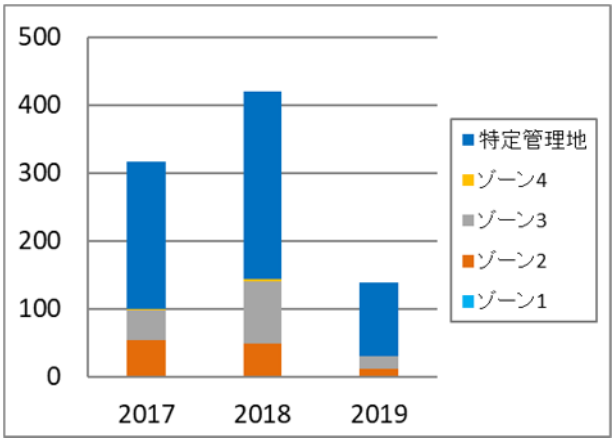


図 14. 斜里町におけるヒグマ対応件数（ゾーン別）

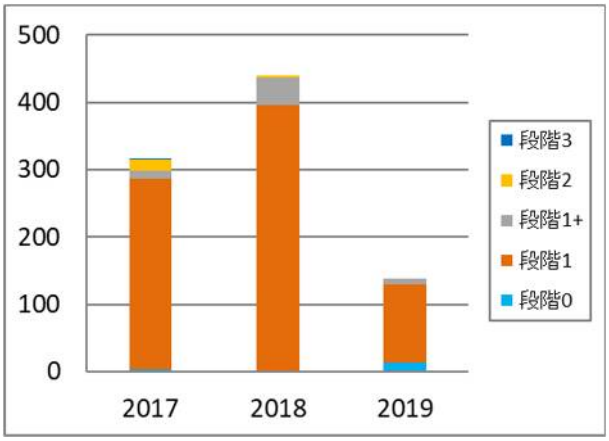


図 15. 斜里町におけるヒグマ対応件数（行動段階別）

表 3.　羅臼町におけるゾーン別、行動段階別のヒグマ対応件数

年	ゾーン	行動段階					計
		0	1	1+	2	3	
2017年	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	1	0	1
	3	0	10	0	0	0	10
	4	0	70	5	7	0	82
	特定管理地	0	33	8	1	0	42
	計	0	113	13	9	0	135
2018年	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	4	0	4	0	8
	3	0	18	0	4	0	22
	4	0	55	3	14	1	73
	特定管理地	0	57	19	1	0	77
	計	0	134	22	23	1	180
2019年	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	5	1	0	0	6
	3	1	20	1	1	0	23
	4	2	100	9	10	0	121
	特定管理地	3	57	1	2	0	63
	計	6	182	12	13	0	213

※行動段階が明確な対応のみを集計。

※2019 年は 10 月末時点の件数

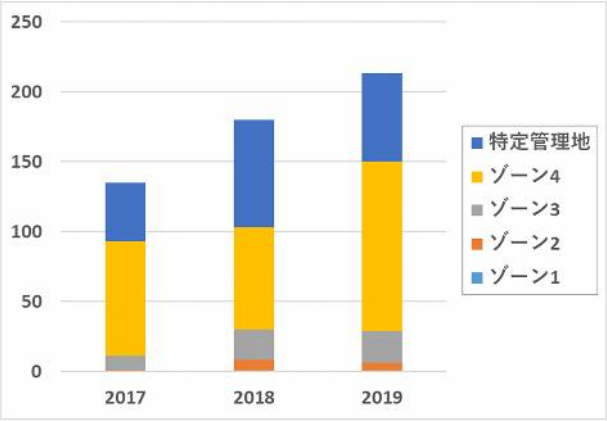


図 16. 羅臼町におけるヒグマ対応件数（ゾーン別）

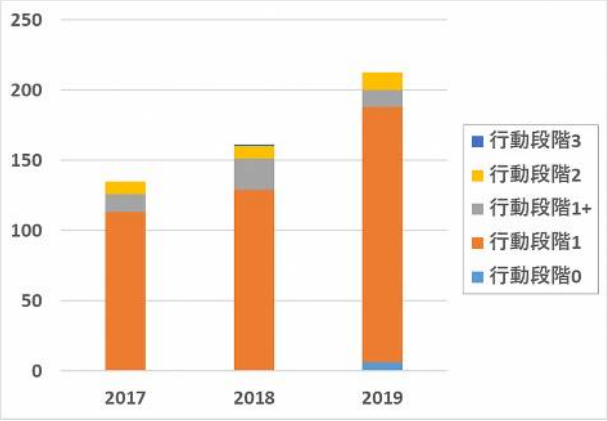


図 17. 羅臼町におけるヒグマ対応件数（行動段階別）

表 4.　標津町におけるゾーン別、行動段階別のヒグマ対応件数

年	ゾーン	行動段階					計
		0	1	1+	2	3	
2017年	1	–	–	–	–	–	0
	2	7	6	4	0	0	17
	3	40	9	2	22	0	73
	4	0	0	0	0	0	0
	特定管理地	–	–	–	–	–	0
	計	47	15	6	22	0	90
2018年	1	–	–	–	–	–	0
	2	6	3	0	1	0	10
	3	25	3	1	3	0	32
	4	0	0	0	0	0	0
	特定管理地	–	–	–	–	–	0
	計	31	6	1	4	0	42
2019年	1	–	–	–	–	–	0
	2	2	1	0	0	0	3
	3	43	12	6	12	0	73
	4	4	0	1	1	0	6
	特定管理地	–	–	–	–	–	0
	計	49	13	7	13	0	82

※行動段階が明確な対応のみを集計。

※2019 年は 10 月末時点の件数

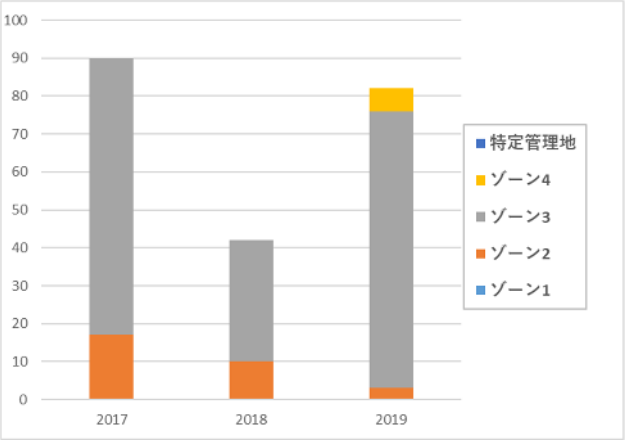


図 18 標津町におけるヒグマ対応件数（ゾーン別）

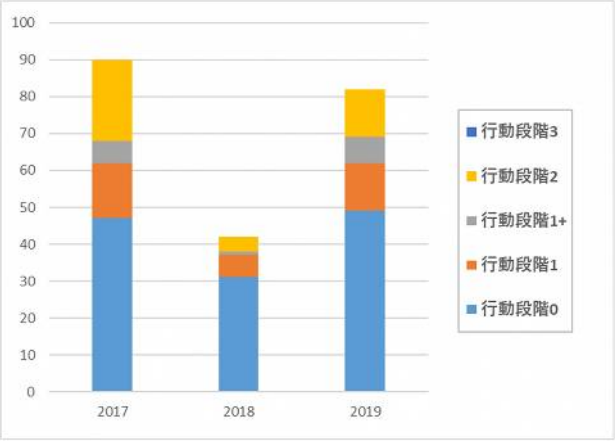


図 19. 標津町におけるヒグマ対応件数（行動段階別）

＜危険事例＞

2019（令和 1）年 10 月末時点で、資料 1-2 に示した事例以外を示す。

斜里町＜全件数：21 件＞

No.	日付・場所	ｿﾞｰﾝ	行動段階	分類	状況概要
1	4 月 30 日 羅臼岳登山道岩尾別コース	2	3	C	羅臼岳岩尾別コースの登山道で、ガイドがヒグマに付きまとわれ、クマスプレーで撃退するという事案が発生した。現地調査を実施し、緊急的に注意喚起看板を設置した。誘引物などは確認されず、その後はヒグマが付きまとうなどの危険な状況は発生しなかった。
2	5 月 1 日 男の涙	1	―	B	ガイド引率ツアーが複数入り込む男の涙近くでエゾシカの死体が確認された。同地点は国有林であり看板設置には許可が必要であることから五湖 news のメーリングリストにて情報発信を行った。ヒグマの姿が目撃されることはなかったが、後日、エゾシカの死体は姿を消していた。
3	6 月 11 日 ウトロ香川	4	1	B	ウトロ市街地柵内にある国設知床野営場敷地内で単独のヒグマが目撃される。地域住民等の安全を確保するため、有害捕獲となった。
4	7 月 7 日 フレペの滝遊歩道	特	1	A	遊歩道脇にある桜の樹に 0 歳 2 頭連れの親子グマが出没。利用者から聞いた情報によると、距離 10m 程の場所にヒグマがいるにも関わらず、そのまま遊歩道を突き進んだ利用者が多数いたとのこと。
5	7 月 12 日 ウトロ香川	4	1	B	ウトロ市街地柵内にある香川坂を道路横断する単独のヒグマが目撃される。地域住民等の安全を確保するため、有害捕獲となった。
6	9 月 8 日 道道岩尾別	特	1	A	岩尾別川に単独亜成獣サイズのヒグマが出没。岩尾別橋には観光客およびカメラマン計 20 名以上がおり、ヒグマとの距離は約 20m 程であった。カメラマンのうち、1 名が孵化場入口に張られたトラロープを越えて、さらにヒグマへ接近していったため、戻るよう注意喚起を実施。

羅臼町＜全件数：22 件＞

No.	日付・場所	ｿﾞｰﾝ	行動段階	分類	状況概要
1	6 月 18 日 化石浜	2	1+	B	ヒグマが漁業番屋周辺に居付き、漁業者がロケット花火で追い払いを試みても逃げない。翌日対応に向かったが当該個体の姿はなく、誘引物等も確認されず。
2	6 月 26 日 峯浜町	3	1+	B	日中に住宅街の海岸を移動するヒグマが目撃される。すでに 2 度追い払いを受けている個体と考えられ、行動改善が見られないためその場で捕獲。
3	7 月 2 日 相泊	特定	1	B	漁業者がヒグマに威嚇される。当該個体は漁業番屋前の海岸に漂着したトドの死体に執着していたため、その場で捕獲。
4	7 月 11 日 海岸町	4	2	C	ヒグマが飼い犬 1 頭を食害。捕獲檻が設置されたが、ヒグマの捕獲には至らなかった。DNA 鑑定によって加害個体は昨年度も飼い犬を食害したヒグマであったことが判明（ID：RT　オス）。
5	7 月 27 日 緑町	4	1	B	市街地中心部で早朝にヒグマが目撃される。対策員が捜索したが当該個体の発見なし。付近の電気柵の電源が人為的に切られていた。
6	7 月 27 日 峯浜町	3	2	A	ヒグマが飼い犬 1 頭を食害。被害現場の調査中に藪に潜んでいた加害個体からブラフチャージを受け、対策員 2 名が転倒して負傷する二次被害か発生。加害個体は逃走。加害個体は RT であったことが判明している。
7	8 月 3 日 春日町	4	2	A	ヒグマが飼い犬 1 頭を食害。現場で加害個体を目視したが、逃走され捕獲には至らず。加害個体は RT であったことが判明している。
8	8 月 8 日 麻布町	4	2	A	運送会社のトラックや施設がヒグマによって破壊され、トラックに積載していた加工残渣が食べられる。捕獲檻によってオス成獣 1 頭を捕獲したが、前掌幅が被害現場に残されていた足跡とサイズが異なっていた。ただし捕獲した個体は、2018 年に同運送会社のトラックを破壊し、2019 年 7 月に水産加工場の施設を破壊した問題個体であったことが判明している（ID：18RS13）。
9	8 月 9 日 知床横断道路	特定	2	B	道路脇でエゾシカ死体に執着しているヒグマが確認されたため、シカの死体を回収。死体回収前後に同地点でヒグマが車両を叩く事例が計 2 件発生。
10	8 月 13 日 海岸町	4	1	B	キャンプ場の海岸で夜間にヒグマが目撃される。後日、目撃地点の海岸で海獣類の漂着死体を確認し回収。
11	8 月 19 日 ～26 日 海岸町～ 岬町	4	1	B	夜間に住宅街でヒグマが目撃される。その後、同一個体と思われるヒグマが住宅街で計 7 回目撃され、8 月 24 日に捕獲した。
12	9 月 1 日 崩浜	2	1	B	ヒグマが海岸を移動中の当財団職員にブラフチャージ。後日の調査で、同地点にほぼ骨のみとなったシカの死体を確認。
13	9 月 4 日 麻布町	4	2	C	ヒグマが運送会社の残渣運搬用トラックを囲んでいた電気柵を破壊。

14	9月5日 緑町	4	1	B	羅臼町役場前の羅臼川でヒグマが目撃される。翌日、再度市街地に侵入しようとしていたところを捕獲。
15	9月8日 羅臼岳登山道	2	1	B	登山利用者が、シカを追いかけているヒグマと5m程の距離で遭遇。ヒグマは唸りながら怒ったように近づいてきて、その後逃げて行ったとのこと。
16	10月23日 相泊	2	1	B	郵便配達員がヒグマにブラフチャージされる。当該個体はマンボウの漂着死体に執着していると考えられたため、死体を回収。

標津町＜全件数：5件＞

市街地への接近あるいは侵入などゾーン3、4における行動段階1の事例、また家庭菜園やふ化場に被害が及ぶ事例が発生した。

No.	日付・場所	ｿﾞｰﾝ	行動段階	分類	状況概要
1	5月12日～13日 古多糠地区	3	1＋	C	複数の牧場で亜成獣が目撃される。同個体と思われる亜成獣が住宅前に出没したことから有害捕獲。
2	6月下旬～7月下旬 市街中心部隣接地区	4	1＋	C	市街地の端に位置するサーモンパークやサーモン橋、防災道路において亜成獣が頻繁に目撃された。その後、同個体と思われる亜成獣がより市街中心部に近いサーモン科学館の棟横などに出没するようになったため、箱わなにより捕獲を試みたが捕獲に至らず。
3	8月上旬 川北地区	3	2	C	川北地区の北部に位置する個人所有の家庭菜園で作られていたスイートコーンが食害される。住宅も近いことから箱わなを設置。8月31日に加害個体と思われるメス1頭を捕獲した。
4	8月上旬～9月上旬 忠類地区	3	1＋	B	海岸にトドなど海獣類の死体が広範囲にわたって多数漂着したことで複数のヒグマが誘引され、ヒグマの目撃も頻繁に報告された。漂着死体は確認できたものだけでも13頭あった。8月下旬には忠類市街近くの海岸に漂着した海獣死体にヒグマが誘引され、忠類市街への侵入も確認されたことから箱わなを設置し、9月5日にオス1頭を捕獲した。
5	9月8日 薫別地区	3	2	C	薫別サケマスふ化場の水路で親魚がヒグマの食害を受けた。電気柵や自動撮影カメラを設置。また定期的なパトロールも実施した。ふ化場には複数の個体が誘引されていることが判明。

＜ヒグマに関係する遊歩道等の閉鎖状況＞

・ヒグマの出没により閉鎖対応しているのは知床五湖地上遊歩道とフレペの滝遊歩道。

・羅臼湖や知床連山登山道は基本的に閉鎖対応なし。

【知床五湖】　＊2019 年 10 月末時点の状況

・地上遊歩道におけるヒグマ遭遇回数は 219 回（図 1）。

・ヒグマ活動期のツアー中止回数は 25 回（図 2）。

・植生保護期の緊急閉鎖回数（荒天原因含む）は 186 回（図 2）。

・2019 年は 2011 年以降、最もヒグマ遭遇回数が多かった。

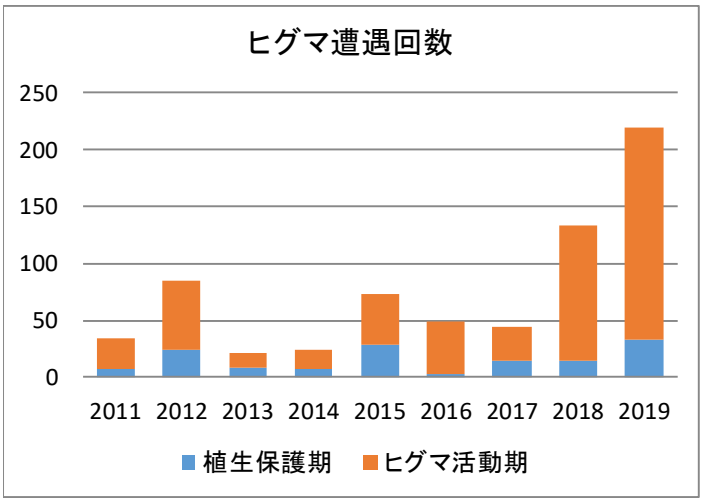


図 20．知床五湖地上歩道におけるヒグマ遭遇回数（※2019 年は 10 月末時点の値）

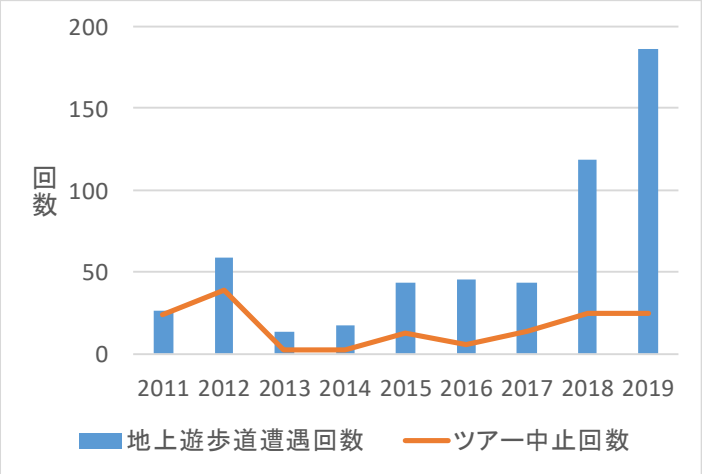


図 21．知床五湖地上歩道の緊急閉鎖日数とツアー中止回数（※2019 年は 10 月末時点の値）

【フレペの滝遊歩道】

・2019 年における遊歩道の閉鎖は 10 月末時点で 41 回あった（表 5)。昨年同期（48 回）より 7 件少なく、昨年比で 85%となった。

表 5. 2019 年のヒグマ出没によるフレペの滝遊歩道閉鎖状況（10 月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1日				11,12回目	27回目	41回目	
2日		1回目	3回目		28回目		
3日			4,5回目		29回目		
4日					30回目		
5日					31回目		
6日					32回目		
7日			6回目	13回目	33回目		
8日			7回目	14回目	34回目		
9日							
10日				15,16回目			
11日					35回目		
12日			8回目	17回目	36回目		
13日							
14日				18回目	37,38回目		
15日				19回目			
16日				20回目	39回目		
17日				21回目			
18日				22回目			
19日							
20日					40回目		
21日							
22日							
23日							
24日							
25日							
26日				23,24回目			
27日			9回目				
28日							
29日							
30日			10回目				
31日		2回目		25,26回目			

【知床連山登山道】

・2019 年は 10 月末時点でヒグマの目撃が 42 件あった（表 6)。昨年同期（62 件）より 20 件少なく、昨年比で 68%となった。

・2016 年から林野庁が各登山口にヒグマ目撃情報収集のためのアンケート用紙と回収ボックスを設置。以降、ヒグマ目撃情報の収集が強化されている。

・登山者自身の判断でヒグマとの遭遇回避や退避等の対策がなされた例がほとんどである。

・登山口における注意喚起の看板設置や、クマスプレーのレンタル等の対策を実施。

表 6. 登山道におけるヒグマ目撃件数

	羅臼岳 （岩尾別コース）	硫黄山	縦走路	羅臼岳 （羅臼温泉コース）	計
2012年	42	9	4	9	64
2013年	17	0	0	2	19
2014年	6	4	0	2	12
2015年	24	5	6	15	50
2016年	17	6	6	3	32
2017年	81	19	17	16	133
2018年	35	14	4	9	62
2019年	16	11	3	12	42